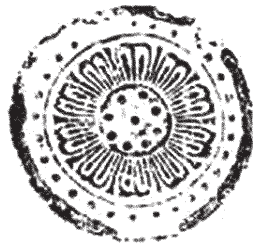


大分市歴史資料館年報

(令和3年度)



2022

はじめに

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が引き続き及ぶ一方で、感染防止対策を講じながら各種活動の再開が進められた年度となりました。

当初計画していた展示事業は、日程や内容を大幅に見直しつつ、昨年度断念した特別展の再開や3回のテーマ展示を実施することができました。

「むかしなつかし大分の鉄道」は、JR九州大分支社、大分交通株式会社をはじめ、鉄道研究家の方々より昔の鉄道資料をお借りして展示を行い、来館された多くの方々になつかしい鉄道の歴史を楽しんでいただきました。さらに、JR九州大分支社のスタンプラリーの一環として、当館にスタンプを設置するなどの取り組み効果もあり、期間中5000人を超える入館者がありました。感染症防止対策に伴う様々な制約がある中で、多くの来館者を迎えることができ、鉄道の歴史への関心の高さが窺える展示となりました。

特別展「源氏物語と大友吉統」は、源氏物語絵や戦国大名大友吉統が季節に合わせ選び認めた「十二月言葉手鑑」を中心に紹介しました。当館所蔵の源氏物語絵は、豊臣秀吉の御用絵師として有名な狩野光信が率いた工房で、弟子たちが描いたとみられます。本来は、今から400年前に一双の屏風に描かれたものでしたが1場面ずつに解体されていたため、この度古写真をもとに解体以前の姿を感じていただけるよう屏風の再現模型を製作しました。

今後も感染状況を注視しながら、展示や教育普及活動の規模や実施方法を工夫し、来館者のみなさまに歴史を楽しく学んでいただけるような資料館づくりに努めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、当館の活動に日頃からご協力をいただいております関係各位に深くお礼を申し上げますとともに、温かいご支援を今後とも賜りますようお願い申し上げます。

令和4年5月1日

大分市歴史資料館

館長 植木 和美

目 次

展 示	1
テーマ展示 特別展	
資料収集	8
教育普及活動	19
歴史資料館利用状況	24
管理及び運営	32
歴史資料館協議会 組織機構 分掌事務 職員 歳入歳出	
施設の概要	34
利用案内	35

展示(テーマ展示)

1.テーマ展示

令和3年度 テーマ展示Ⅰ

「津々浦々～諸領入り交じる大人気の港町」

会 期：4月24日(土)～6月27日(日)

開館日数：55日 入館者数：1,295人

大分市には数多くの港がつくられ、津々浦々に多くの商船が行き交った。その中には、諸大名のお殿様が乗る絢爛豪華な御座船や、参勤交代の船団が泊まる大人気の港町があった。

展示では、九州の玄関口として廻船や参勤交代の船団が集まる大分市の港町の様子を紹介し、その町にまつわる江戸時代の歴史を解説した。



第一章 「杵築府内間山水図巻」展示

展示構成・主な展示品

[第一章 地名に残る江戸時代の港]

「杵築府内間山水図巻」

「豊後府内藩船之図」

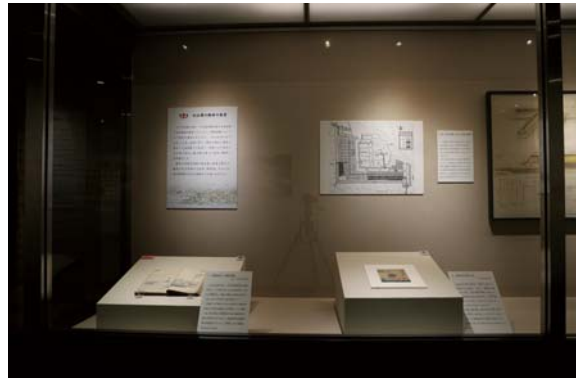
[第二章 初公開の鶴崎の風景]

「豊後鶴崎」 『諸国奇観』

「細川氏御座船鶴崎入港図」

[第三章 諸領入り交じる大人気の港町]

「高松陣屋御預所絵図」



第二章 展示の様子



ポスター



第三章 「細川氏御座船鶴崎入港図」展示



展覧会観覧の様子

展示(テーマ展示)

令和3年度 テーマ展示Ⅱ

「むかしなつかし 大分の鉄道」

会 期：7月17日(土)～10月17日(日)

開館日数：85日 入館者数：5,298人

明治33(1900)年に大分―別府間に電車が開通して以来、120年以上に渡り、物資や人を運び続け、地域の発展を支え人々に親しまれた大分の鉄道を紹介した。

展示では、大分の鉄道に関わる写真や資料、模型などを展示し、黎明期から現在まで、大分を中心とした鉄道の移り変わりを解説した。



第1・2章 展示の様子

展示構成・主な展示品

[第1章 鉄道の夜明け]

「大湯鉄道の蒸気機関車(H.K.ポーター社製)」

近藤一郎氏・内田利次氏所蔵

[第2章 延びる鉄道]

「久大本線 大分―鳥栖間無煙化記念プレート」

山田哲也氏所蔵

[第3章 国鉄からJRへ]

「さよなら寝台特急富士 記念乗車券入れ」

山田哲也氏所蔵

「TORO-Qのヘッドマーク」JR九州大分支社所蔵

[第4章 大分駅今昔]

「竣工当初の大分駅機関庫(1912年)」

『大分停車場構内扇形機関庫写真帖』



第3章 「ヘッドマーク」展示



ポスター



第4章 「大分駅今昔」写真パネル展示



展覧会観覧の様子

展示(テーマ展示)

令和4年 春季テーマ展示

「松平殿様物語」

会 期：令和4年3月5日(土)～5月8日(日)

開館日数：56日

入館者数：令和4年3月31日まで567人

徳川家康の一家門松平氏。そのうち、家康の孫で越前(福井県)の福井藩主だった松平忠直と豊後(大分県)の府内藩主大給松平氏とが大分と深い関わりをもっていた。

展示では、松平忠直と松平忠昭という二人のお殿様の物語を中心に、江戸時代の大分市の歴史的特性を紐解いた。

展示構成・主な展示品

[第一章 物語のはじまり]

「松平忠直画像(複製)」原本：浄土寺(大分市)所蔵

[第二章 大給松平のお殿様]

「松平忠昭中津留屋敷絵図」

[第三章 お殿様ゆかりの巨匠たち]

「熊野権現縁起絵巻」

熊野神社(大分市)所蔵 大分市歴史資料館寄託

[第四章 物語にみる大分市の特性]

「正保城絵図(複製)」原本：内閣文庫所蔵



第一章 「松平忠直画像」展示



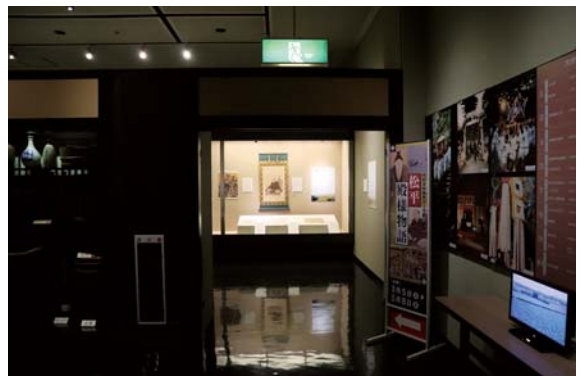
第二章 「松平忠昭中津留屋敷絵図」等展示



第三・四章 展示の様子



ポスター



展覧会入口の様子

展示(特別展)

II.特別展

1.第39回 特別展

「源氏物語と大友吉統」

会 期：11月6日(土)～12月19日(日)

会 場：第2展示室・テーマ展示室

開館日数：37日 入館者数：3,662人

出品点数：43点

当館所蔵の源氏物語絵は、『源氏物語』全54帖のそれぞれの名場面を絵にした54枚の一部であり、本来は今からおよそ400年前に制作された六曲一双の屏風に描かれたものである。

展示では、当館所蔵の源氏物語絵25枚すべてと、所有者からお借りした初公開の2枚を公開した。また、元の姿を想像できるように屏風の再現も行った。

さらに、戦国大名大友吉統が『源氏物語』の一節を季節に合わせて選び認めた「十二月言葉手鑑」の30枚すべてを展示し、源氏物語を題材にした当館所蔵の資料を余すところなく紹介した。

展示構成・主な展示品

【第一章 大友吉統が選んだ源氏物語】

「豊臣秀吉朱印状」

「十二月言葉手鑑」

【第二章 狩野光信の配下で制作された源氏物語絵】

「源氏物語絵 巻1「桐壺」 個人所蔵

「源氏物語絵 巻43「紅梅」」

【第三章 源氏物語屏風の再現】

「源氏物語五十四帖図屏風再現模型」

【トピック お殿様所有の狩野派の屏風】

「波奈之丸屏風(巖島神社図)六曲一双」

個人所蔵 大分市歴史資料館寄託

【第四章 光り輝く姫君たちの物語】

「源氏物語絵 巻8「花宴」」

「源氏物語絵 巻23「初音」」



ポスター

特別展解説講座

日 時：11月14日(日) 14時～15時30分

場 所：講座室及び特別展会場

人 数：25人

当館学芸員が特別展の見どころについて紹介し、展示会場にて展示品の解説を行った。



展覧会入口の様子



第一章 「絹本著色豊臣秀吉像」等展示

展示(特別展)

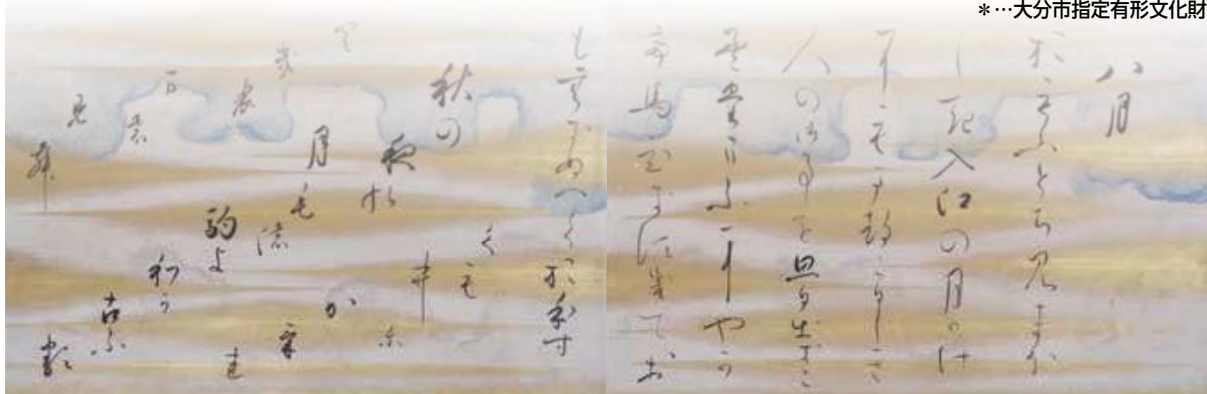
－ 出品目録 －

図版 番号	名 称	数 量	寸法 (cm) 【縦×横】	所蔵者
第1章 大友吉統が選んだ源氏物語				
1	絹本著色豊臣秀吉像 (写真パネル)	1		宇和島伊達文化保存会
2	肥前名護屋城図屏風 (写真パネル)	1		佐賀県立名護屋城博物館
3	豊臣秀吉朱印状	1	41.0 × 52.1	大分市歴史資料館
4	大友吉統感状	1	16.7 × 47.8	大分市歴史資料館
5	御所参内・聚楽第行幸図屏風 右隻 (写真パネル)	1		個人蔵、上越市立歴史博物館寄託
6	御所参内・聚楽第行幸図屏風 左隻 (写真パネル)	1		個人蔵、上越市立歴史博物館寄託
7	『聚楽行幸記』写本(写真パネル)	1		国立公文書館
8	『聚楽行幸記』写本(写真パネル)	1		国立公文書館
9	大友吉統上洛下向吉日勘文写	1		東京大学史料編纂所
10	十二月言葉手鑑	1		大分市歴史資料館
	正月 卷23「初音」の一節		32.1 × 48.0	
	二月 卷8「花宴」の一節		〃	
	三月 卷31「真木柱」の一節		〃	
	四月 卷9「葵」の一節		〃	
	五月 卷25「蛭」の一節		〃	
	六月 卷4「夕顔」の一節		〃	
	七月 卷27「篝火」の一節		〃	
	八月 卷13「明石」の一節		〃	
	九月 卷10「賢木」の一節		〃	
	十月 卷7「紅葉賀」の一節		〃	
	十一月 卷21「少女」の一節		〃	
	十二月 卷29「行幸」の一節		〃	
第2章 狩野光信の配下で制作された源氏物語絵				
11	園城寺勸学院客殿一之間障壁図[四季花卉図]北面(写真パネル)		—	園城寺 (大津市)
12	園城寺勸学院客殿一之間障壁図[四季花卉図]東面(写真パネル)		—	園城寺 (大津市)
13	源氏物語絵 卷1 「桐壺」	1	46.1 × 57.1	個人蔵
14	源氏物語絵 卷27 「篝火」	1	42.1 × 57.1	大分市歴史資料館
15	源氏物語絵 卷13 「明石」	1	34.9 × 50.0	大分市歴史資料館
16	源氏物語絵 卷10 「賢木」	1	34.4 × 49.5	大分市歴史資料館
17	源氏物語絵 卷39 「夕霧」	1	27.5 × 57.0	大分市歴史資料館
18	源氏物語絵 卷49 「宿木」	1	28.4 × 54.6	大分市歴史資料館
19	源氏物語絵 卷15 「蓬生」	1	35.4 × 48.4	大分市歴史資料館

展示(特別展)

図版番号	名称	数量	寸法 (cm) 【縦×横】	所蔵者
20	源氏物語絵 巻 43 「紅梅」	1	34.2 × 57.6	大分市歴史資料館
21	源氏物語絵 巻 2 「帚木」	1	41.3 × 57.6	大分市歴史資料館
22	源氏物語絵 巻 18 「松風」	1	35.0 × 55.6	大分市歴史資料館
23	源氏物語絵 巻 29 「行幸」	1	28.3 × 56.0	大分市歴史資料館
24	源氏物語絵 巻 41 「幻」	1	29.3 × 44.0	大分市歴史資料館
第 3 章 源氏物語屏風の再現				
25	源氏物語五十四帖図屏風再現模型 (右隻)	1		大分市歴史資料館
26	源氏物語五十四帖図屏風再現模型 (左隻)	1		大分市歴史資料館
トピック お殿様所有の狩野派の屏風				
27	波奈之丸屏風(巖島神社図) 右隻*	1	179.3×379.6	個人蔵(大分市歴史資料館寄託)
28	波奈之丸屏風(巖島神社図) 左隻*	1	179.3×379.6	個人蔵(大分市歴史資料館寄託)
第 4 章 光り輝く姫君たちの物語				
29	源氏物語絵 巻 8 「花宴」	1	51.2 × 58.4	大分市歴史資料館
30	源氏物語絵 巻 11 「花散里」	1	28.6 × 54.4	大分市歴史資料館
31	源氏物語絵 巻 12 「須磨」	1	31.5 × 50.0	大分市歴史資料館
32	源氏物語絵 巻 23 「初音」	1	38.6 × 50.1	大分市歴史資料館
33	源氏物語絵 巻 5 「若紫」	1	36.2 × 56.5	大分市歴史資料館
34	源氏物語絵 巻 9 「葵」	1	29.0 × 51.6	浄土寺(大分市)
35	源氏物語絵 巻 21 「少女」	1	32.4 × 57.4	大分市歴史資料館
36	源氏物語絵 巻 40 「御法」	1	37.3 × 57.5	大分市歴史資料館
37	源氏物語絵 巻 3 「空蟬」	1	32.3 × 57.6	大分市歴史資料館
38	源氏物語絵 巻 16 「関屋」	1	32.4 × 53.6	大分市歴史資料館
39	源氏物語絵 巻 44 「竹河」	1	48.8 × 57.9	大分市歴史資料館
40	源氏物語絵 巻 46 「椎本」	1	29.9 × 57.6	大分市歴史資料館
41	源氏物語絵 巻 52 「蜻蛉」	1	46.1 × 57.9	大分市歴史資料館
42	源氏物語絵 巻 6 「末摘花」	1	26.7 × 56.7	大分市歴史資料館
43	源氏物語絵 巻 38 「鈴虫」	1	34.1 × 43.3	大分市歴史資料館

*…大分市指定有形文化財



展示(特別展)



第一章 「十二月言葉手鑑」展示



第二章 「源氏物語絵」展示の様子



源氏物語五十四帖屏風 再現模型



トピック 屏風展示



波奈之丸屏風(厳島神社図)右隻



第四章 「源氏物語絵」展示の様子



第四章 「源氏物語絵」展示の様子



おわりに 展示の様子

資料収集

資料購入

資料収集委員会

1. 会議

開催日：令和3年6月25日(金) 場 所：大分市歴史資料館 会議室

議 案：審議事項 令和3年度購入予定資料の説明

2. 委員会名簿

委員構成		
段上 達雄(会長)	別府大学文学部 特任教授	民俗学
下村 智(副会長)	別府大学文学部 教授	考古学
安田 晃子	宇佐市教育委員会 社会教育課	文献史学
大津 祐司	大分県立先哲史料館 主任研究員	文献史学
田中 修二	大分大学教育学部 教授	美学・美術史

資料購入について

1. 合澤家所蔵文書

本年度購入したのは、市指定有形文化財「合澤家所蔵文書」(平成27年12月25日付、古第5号)のうち、中世文書24点である。

「合澤家所蔵文書」は中世文書36点と近世文書14点で構成される、大友水軍衆の末裔に伝来した「若林家文書」を中心とする貴重な古文書群である。中世の若林氏は豊後国海部郡佐賀郷の一尺屋(大分市一尺屋)を本拠地とする大友氏の家臣で、沿岸部に所領を持ち、海に生活基盤を置く海部地方の有力な武士であった。

「合澤家所蔵文書」の史料価値は高く、指定理由のとおり、①豊後国海部地方の武士の存在形態や大友氏との主従関係の実態を物語る貴重な中世文書であること②包紙や礼紙、切封が残されており、中世文書の形態を現代に伝えるものであること、などが指摘されている。

これらのことから、大分の中世大友時代の歴史、及び日本中世の大名水軍家臣団の活動実態を記録したきわめて重要な文化財であり、大分市が所蔵して将来にわたって守り伝えていくにふさわしく、展示や研究に活用されて広く市民・県民・国民に紹介されるべき優れた歴史資料であるとの評価を得たことから、この度購入に至った。

資料収集(資料購入リスト)

番号	資料名	指定時資料番号	備考
1	大友親安(義鑑)知行預ヶ状	3	縦 28.5cm× 横 39.5cm
2	大友氏奉行人連署奉書	4	縦 28cm× 横 38cm
3	親毎打渡状	5	縦 34cm× 横 62.5cm
4	大友親敦(義鑑)名字状	6	縦 29cm× 横 41.5cm
5	大友親敦(義鑑)名字書出	7	縦 29cm× 横 41cm
6	白杵長景官途書出	8	——
7	若林二郎左衛門尉坪付案	9	縦 27.5cm× 横 44.5cm
8	若林仲盛書状案	10	縦 27.5cm× 横 44.5cm
9	大友義鑑感状	11	縦 28.8cm× 横 45cm
10	大友義鑑感状(礼紙あり)	12	縦 28.5cm× 横 44cm

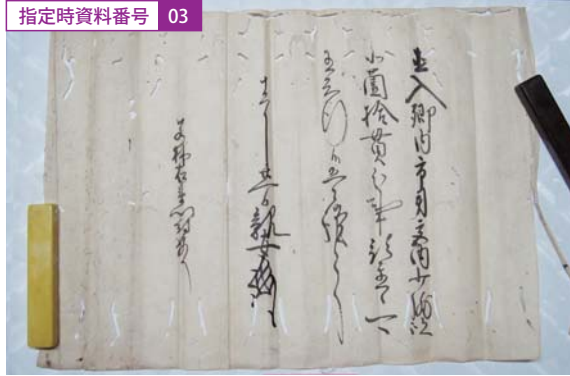
資料収集(資料購入リスト)

番号	資料名	指定時資料番号	備考
11	大友義鑑知行預ヶ状	13	縦 29cm× 横 38.5cm
12	安岐郷内知行坪付	14	縦 27cm× 横 37cm
13	大友義鑑受領書出	15	縦 24.5cm× 横 38cm
14	小深田惟述書状(礼紙あり)	16	縦 27cm× 横 45cm
15	小深田惟述書状	17	縦 26cm× 横 35.5cm
16	(田北)親忠・元継連署書状	18	縦 25.5cm× 横 37cm
17	大友義鑑感状(礼紙あり)	19	縦 27cm× 横 44cm
18	大友義鑑書状	20	縦 27.5cm× 横 44cm
19	(清田)鑑勝書状	21	縦 16.5cm× 横 34.5cm
20	鎮中安堵状案	24	縦 30cm× 横 44cm

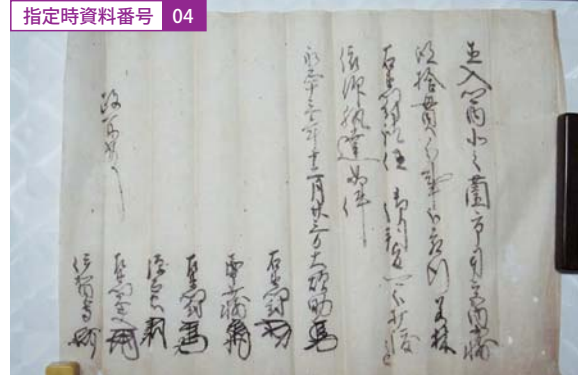
資料収集(資料購入リスト)

番号	資料名	指定時資料番号	備考
21	若林鎮興安堵状案	25	——
22	為続書状	27	——
23	親每書状	28	縦 25cm× 横 40cm
24	礼紙(大友義鑑)	35	縦 25.5cm× 横 37cm

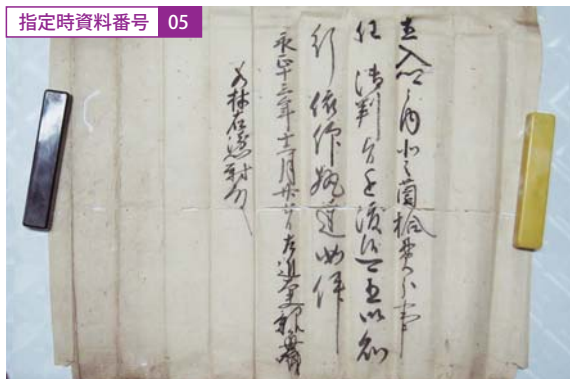
資料収集(購入資料写真)



1. 大友親安(義鑑)知行預ケ状



2. 大友氏奉行人連署奉書



3. 親每打渡状



4. 大友親敦(義鑑)名字状



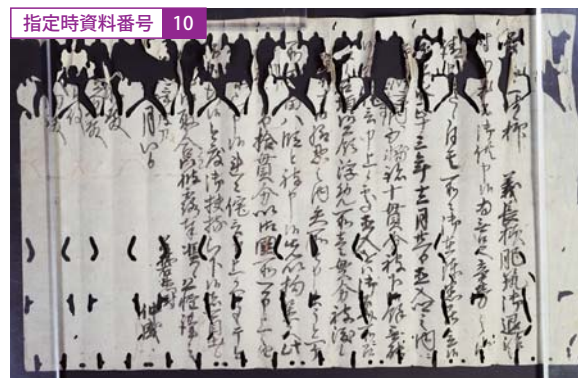
5. 大友親敦(義鑑)名字書出



6. 白杵長景官途書出



7. 若林二郎左衛門尉坪付案

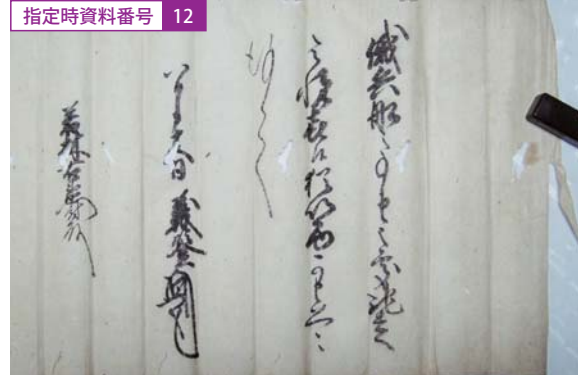


8. 若林仲盛書状案

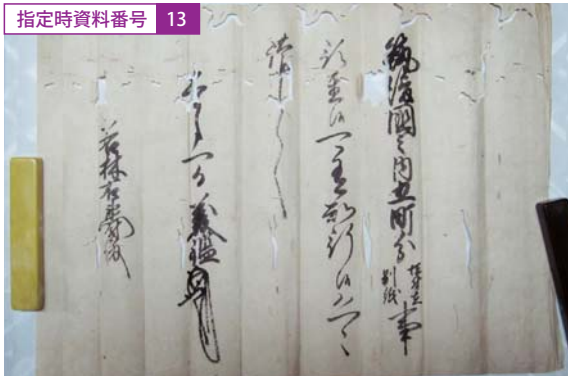
資料収集(購入資料写真)



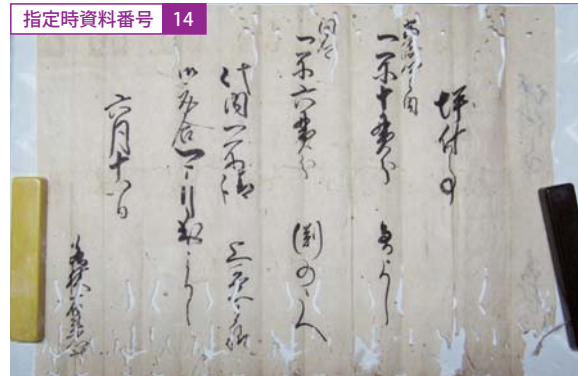
9. 大友義鑑感状



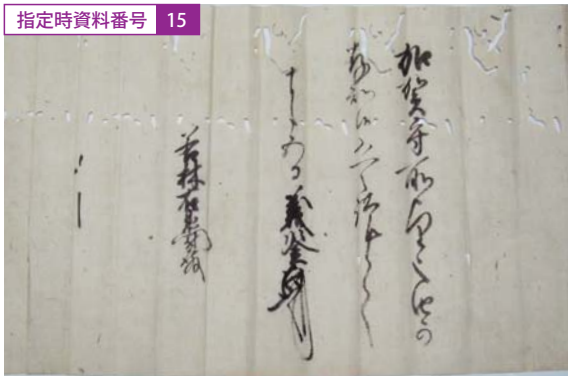
10. 大友義鑑感状(礼紙あり)



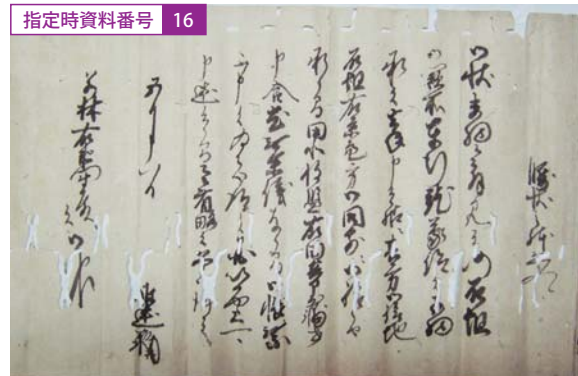
11. 大友義鑑知行預ケ状



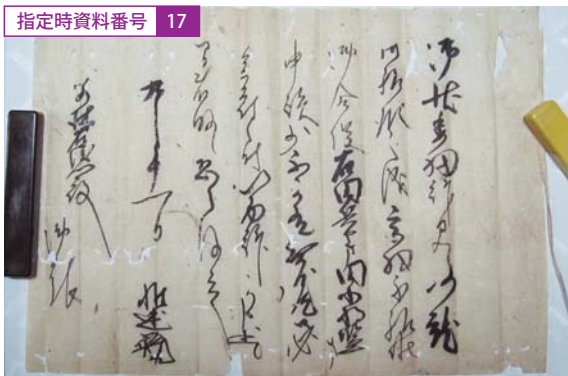
12. 安岐郷内知行坪付



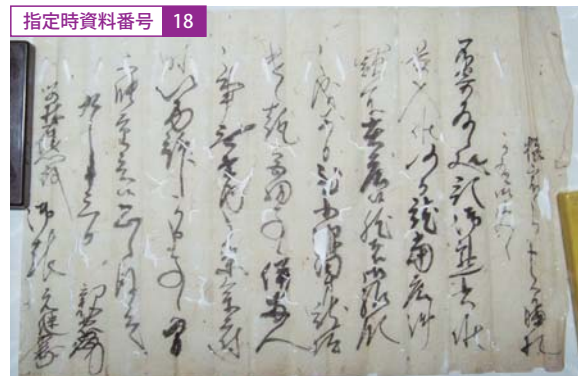
13. 大友義鑑受領書出



14. 小深田惟述書状(礼紙あり)



15. 小深田惟述書状



16.(田北)親忠・元継連署書状

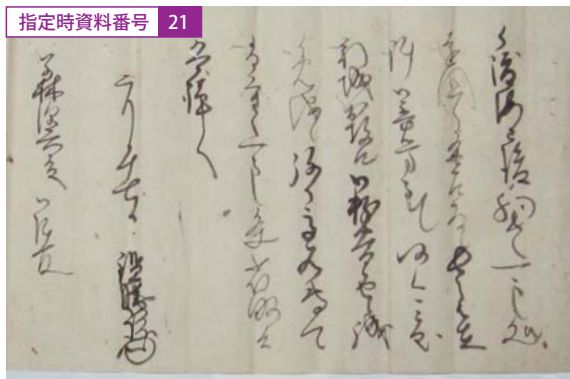
資料収集(購入資料写真)



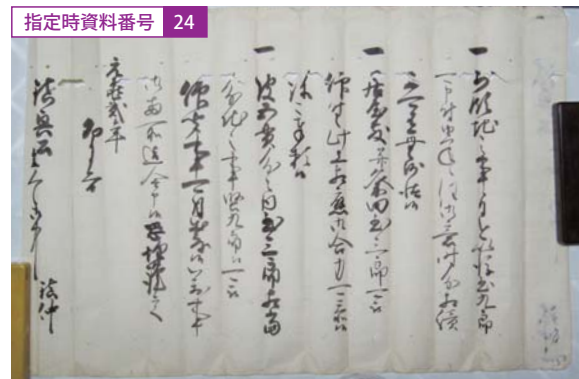
17. 大友義鑑感状(礼紙あり)



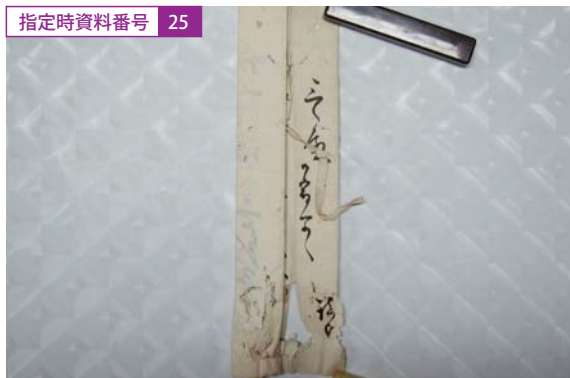
18. 大友義鑑書状



19. (清田) 鑑勝書状



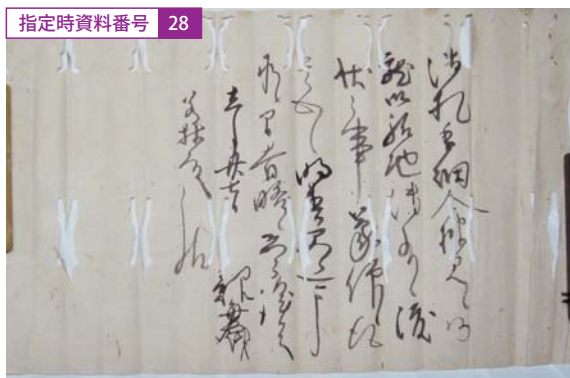
20. 鎮中安堵状案



21. 若林鎮興安堵状案



22. 為続書状



23. 親每書状



24. 礼紙(大友義鑑)

資料収集(寄贈資料リスト)

番号	寄贈者	資料名	点数	資料名詳細
1	大分市 個人	際鉋 ほか	3	際鉋：1、底取鉋：1、ガラスカッター：1
2	大分市 個人	ウィッティ発動機	1	ウィッティ発動機：1
3	大分市 個人	やぐらこたつ	1	やぐらこたつ：1
4	大分市 個人	写真資料 ほか	4	昭和9年工場全景写真：1、製粉機描写絵(額装)：1、両陛下写真(額装)：1、天皇工場行幸写真：1
5	大分市 個人	戦争資料	14	写真(額入・小)：1、写真(額入・大)：1、勲章：2、佐世保海兵団写真帖：1、写真(手記紹介時)：1、硫黄島陣中日誌原本：1、硫黄島陣中日誌原本(活字)：1、硫黄島陣中日誌原本(原稿コピー)：1、スクラップ帳：1、手紙の感想文：1、はがき：1、手紙(戦後)：1
6	大分市 個人	戦争資料	26	あゝ紅の血は燃ゆる：1、大分の空襲：1、振子の軌跡：1、古写真：23
7	大分市 個人	戦争資料	7	日本海軍帽子の意匠：1、大東亜戦争海軍写真記録帖：1、佐世保海兵団修業記念写真帖：1、絵葉書(東郷平八郎)：1、アルバム(軍関係)：1、アルバム(家族関係)：1、勲七等青色桐葉章：1
8	大分市 個人	戦争資料	37	将校用背囊：2、将校用函囊：1、旧日本軍外套：1、旧日本軍外被：1、旧日本軍雨衣フード：3、旧日本軍軍衣：5、防暑衣：1、軍袴：4、将校用略刀帯：1、将校用飯盒：1、将校用水筒：2、階級章：7、日章旗：1、柳行李：1、皮袋：3、ペンケース：1、「大東亜戦争史」レコード24枚組：1、「大東亜戦争史」レコード付属小冊子：1
9	大分市 個人	戦争資料	2	「思い出」(戦争体験記)：1、文集「戦争と平和」：1
10	大分市 個人	野津原村勢要覧	1	野津原村勢要覧(昭和24年)：1

資料収集(寄贈資料リスト)

番号	寄贈者	資料名	点数	資料名詳細
11	大分市 個人	日章旗	1	日章旗(アメリカ兵より返還)：1
12	大分市 個人	軍隊日記	1	軍隊日記(昭和 15 年 1 月から)：1
13	大分市 個人	陶器製ゆたんぼ	1	陶器製ゆたんぼ(白色)：1
14	大分市 個人	戦争資料	26	軍隊手帳：1、防空電球：1、戦時国債：16、大連八景絵葉書(8 枚セット)：1、記念絵葉書(羊毛工場など)：6、戦前日出生台絵葉書：1
15	大分市 個人	別大電車腕章	2	別大電車運転士の腕章：1、別大電車車掌の腕章：1
16	大分市 個人 (大分市 市民図書館 から移管)	樋口喜内書簡一括	46	樋口喜内書簡：46
17	大分市 個人	鉄道関係資料	4	日豊本線開業 100 周年記念乗車券：1、祝大正三年四月一日豊州本線佐伯線・犬飼軽便線開通 100 周年記念乗車券：1、SEVEN STARS (JR 九州クルーズトレインななつ星案内パンフレット)：1、平成 22 年 JR 九州 1 日限定復活急行記念乗車券(12 枚綴)：1

資料収集(寄贈資料写真)



1. 際鉋・底取鉋



2. ウィッティ発動機

資料収集(寄贈資料写真)



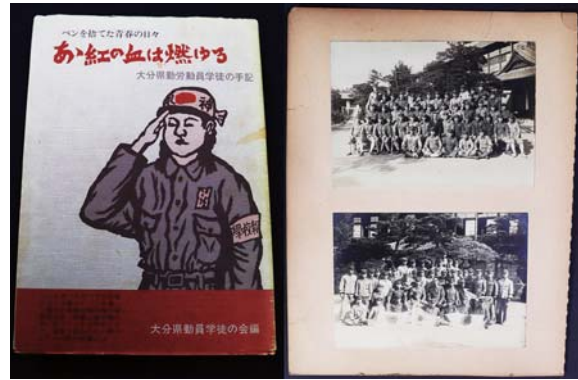
3. やぐらこたつ



4. 昭和9年工場全景写真、製粉機描写絵(額装)



5. 写真(額入・大)、硫黄島陣中日誌原本



6. 『あゝ紅の血は燃ゆる』、古写真



7. 『大東亜戦争海軍写真記録』、日本海軍帽子の意匠



8-1. 旧日本軍軍衣



8-2. 将校用図囊、背囊



9. 『思い出』(戦争体験記)、文集『戦争と平和』

資料収集(寄贈資料写真)



10. 野津原村勢要覽



11. 日章旗



12. 軍隊日記



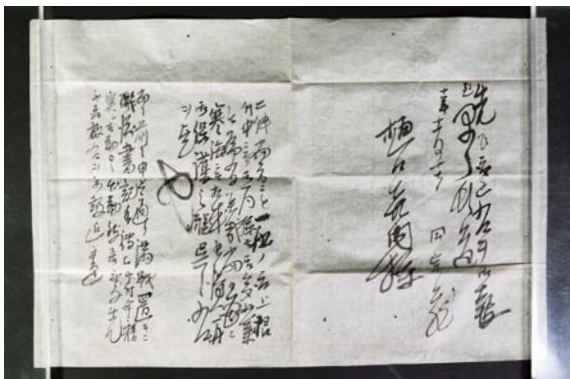
13. 陶製湯たんぼ



14. 防空電球、戦時国債



15. 別大電車車掌および運転士の腕章



16. 樋口喜内書簡



17. 日豊本線開業 100 周年記念乗車券

教育普及活動

ふるさとの歴史再発見講座

定員：60名 受講料：各コース300円

時間：【午前の部】10時～11時30分 【午後の部】14時～15時30分

高校生以上を対象に、考古、民族・文化史の2コースの講座を下記の日程で開催。

※歴史、古文書の2コースは新型コロナウイルス感染拡大の為中止。

(1) 考古のコース

期間：4月～8月（各指定の土曜日） 受講者総数：197人

実施日	内 容	講 師	受講者
4月24日	「大分市の国指定史跡」	松浦 憲治(当館職員)	45人
6月26日	「大友氏館跡と中世大友府内町跡」～食器と調理具から見る中世の暮らし～	山本 尚人(文化財課)	45人
7月10日	「近年の古墳時代研究からみた大分市の古墳時代像」	長 直信(文化財課)	38人
7月17日	「発見！！「鶴崎御茶屋」の痕跡 その2」	佐藤 道文(文化財課)	35人
8月7日	「府内城の石垣について」	小野 綾夏(文化財課)	34人

(2) 民俗・文化史のコース

期間：10月～12月（各指定の土曜日） 受講者総数：88人

実施日	内 容	講 師	受講者
10月30日	「生活から生まれた民間療法」	神田 太一(当館職員)	24人
11月6日	「幕末の医師、賀来飛霞が描いた薬草」	塩地 潤一(文化財課)	23人
12月4日	「祭りと厄払いー町役所日記にみる庶民の防疫ー」	阿南 雅希(杵築市教育委員会)	19人
12月18日	「薬師如来と薬師信仰ーその変遷と造形ー」	渡辺 文雄(元別府大学教授)	22人

教育普及活動

学校・団体の利用

コロナ禍のなか、大分市内の小中学校を中心に子ども会やPTA、家庭教育学級、児童育成クラブなどの団体による体験活動の利用があった。

☆移動講座（出張歴史教室）歴史体験をより多くの学校、団体に活用してもらうために、依頼のあった学校や公民館にてかけて体験学習を実施した。

<学校・団体体験活動利用数>

※学校・団体利用には、公園利用を含み講座受講生を含まない。

	利用団体数				利用者数				合計
					資料館		移動講座		
	学校	団体	移動	合計	児童・生徒	大人	児童・生徒	大人	
4月	0	1	0	1	4	2	0	0	6
5月	0	2	0	2	36	42	0	0	78
6月	3	0	2	5	76	29	98	8	211
7月	1	1	9	11	75	110	269	107	561
8月	0	4	10	14	35	72	296	81	484
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	2	0	0	2	207	55	0	0	262
11月	30	2	0	32	2,115	182	0	0	2,297
12月	9	2	3	14	476	89	101	30	696
1月	3	1	0	4	187	8	0	0	195
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	48	13	24	85	3,211	589	764	226	4,790

ふれあい歴史体験講座

時間：9時30分～／14時～

親子や一般市民を対象に、下記の歴史体験講座を実施。

【体験講座 材料費】

回	実施日(土曜日)		内 容	参加者		
				子ども	大人	計
1	5/1	午前・午後	勾玉作り	23	28	51
2	5/15	午前・午後	はにわ作り 《中止》	0	0	0
3	6/5	午前・午後	土笛作り 《中止》	0	0	0
4	6/19	午前・午後	土偶作り	10	14	24
5	7/3	午前・午後	七夕飾り作り	17	20	37
6	7/24	午前・午後	はにわ作り	29	26	55
7	8/21	午前・午後	土面作り 《中止》	0	0	0
8	9/4	午前・午後	織物作り 《中止》	0	0	0
9	9/18	午前・午後	紙かご作り 《中止》	0	0	0
10	10/2	午前・午後	籐芯かご作り	9	21	30
11	10/23	午前・午後	紙かご作り	16	20	36
12	11/13	午前・午後	勾玉作り	24	29	53
13	11/20	午前・午後	土の鈴作り	15	19	34
14	12/11	午前・午後	和風作り	11	13	24
15	12/25	午前・午後	ぞうり作り	10	22	32
16	1/29	午前・午後	土器作り 《中止》	0	0	0
17	2/5	午前・午後	折り紙雑作り 《中止》	0	0	0
18	2/19	午前・午後	勾玉作り 《中止》	0	0	0
19	3/12	午前・午後	火起こし・明るさ 《中止》	0	0	0
合 計				164	212	376

体験講座名	材料費
火起こし・明るさ	無料
土笛作り	80円
土の鈴作り	80円
七夕飾り作り	100円
ぞうり作り	100円
紙かご作り	150円
土面作り	170円
土偶作り	200円
織物作り	200円
折り紙雑作り	200円
勾玉作り	270円
和風作り	270円
はにわ作り	280円
土器作り	300円
籐芯かご作り	550円

教育普及活動

「昔のおもちゃで遊ぼう」教室 ※新型コロナウイルス感染拡大の為中止

時間：9時30分～15時 材料費：無料

勾玉作り教室

時間：9時～11時／13時～15時 材料費：270円

回	実施日(土曜日)		参加者		
			子ども	大人	計
1	7/31	午前・午後	19	17	36
合計			19	17	36

夏休みジュニア歴史探検

実施日：8月5日(木) 時間：9時30分～15時30分 参加者数：8名 参加料：500円

小学4年～中学生を対象に、資料館のバックヤード見学や史跡公園を巡る歴史体験、鏡作り体験を実施した。

職場体験学習の受け入れ ※新型コロナウイルス感染拡大の為中止

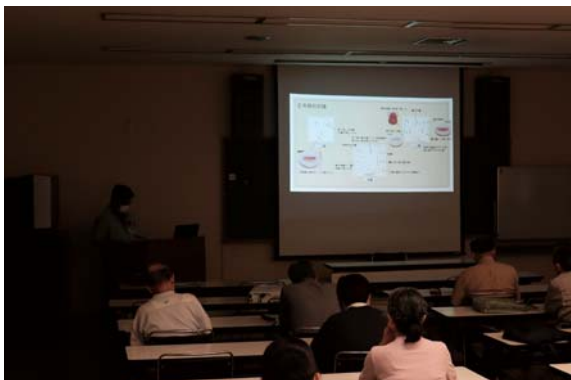
小学生～高校生を対象に、資料館職員の仕事を体験。

展示解説講座

定員：30名 時間：14時～15時30分 料金：無料(ただし、観覧料が必要)

テーマ展示及び特別展示の見どころについて、展示会場において学芸員が解説を行った。

実施日	内容	参加者	実施日	内容	参加者
5/9(日)	テーマ展示Ⅰ 「津々浦々～諸領入り交じる大人気の港町」	中止	11/14(日)	第39回特別展 「源氏物語と大友吉統」	25人
8/8(日)	テーマ展示Ⅱ 「むかしなつかし 大分の鉄道」	15人	3/20(日)	令和4年春季テーマ展示 「松平殿様物語」	15人
参加者合計					55人



ふるさとの歴史再発見講座「考古のコース」(6月26日)



ふれあい歴史体験講座「はにわ作り」(7月24日)



ふれあい歴史体験講座「土偶作り」(6月19日)



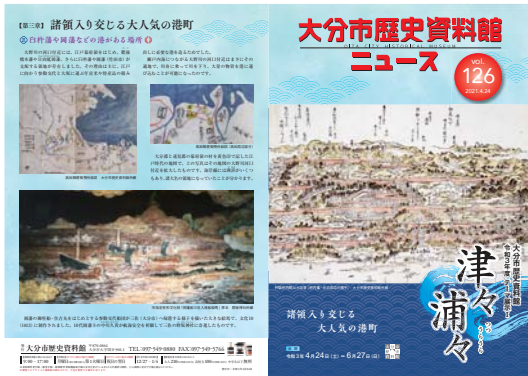
夏休みジュニア歴史探検(8月5日)

教育普及活動

刊行物

※年報はホームページに掲載予定

名称	規格	頁数	部数
資料館ニュース 126号	A4	4	6,500
資料館ニュース 127号	A4	4	6,500
資料館ニュース 128号	A4	4	6,500
第39回 特別展 函録	A4	48	1,000



資料館ニュース 126号



資料館ニュース 127号



資料館ニュース 128号

教育普及活動

資料の利用・貸出

(1) 資料の利用提供

件名	件数
熟覧・写真撮影	18件
印刷物掲載・写真貸与	48件

(2) 資料の貸出

団体名	展示会名	点数
朝倉市秋月博物館	特別展「戦国筑前の雄 秋月種実」	2
大分県立歴史博物館	開館40周年記念特別展「赤塚古墳と三角縁神獸鏡～宇佐風土記の丘からみた古墳時代～」	8
中津市歴史博物館	特別展「西向くサムライー鎌倉幕府と豊前国ー」	2
大分県立歴史博物館	企画展「子どもに見せたい昭和の道具」	2
日出町歴史資料館・日出町帆足萬里記念館	特集展「日出・信仰の残影ーザビエル来豊から470年を経てー」	6
下関市立歴史博物館	毛利元就没後450年記念特別展「毛利VS大友ー海峡の戦国史 第2章」	7
大分県立埋蔵文化財センター	企画展「大分のものゝふ」	1
大分県立埋蔵文化財センター	企画展「豊の古代瓦」	5
天草市立天草コレジヨ館	企画展「Amacusaと九州西岸のNAMBAN」	1

広報事業

令和3年度は、以下の施設等に総合案内等のPR活動を実施。

学 校	小・中学校(市内)	89校
	小学校(市外)	62校
	高等学校・大学等	44校
行 政	市役所関係	38カ所
	県庁関係	4カ所
	県内自治体	21カ所
博物館	県外博物館	180カ所
	県内博物館	21カ所
	県外埋文センター・大学附属博物館等	89カ所
その他	市政記者クラブ(随時)	1社
	県内マスコミ	17社
	交通機関・一般施設等	64カ所

歴史資料館利用状況

月別観覧者数

単位：人

年 / 月	開館 日数	観覧者数										講座室利用者数							来館者 総合計
		一 般				団 体				合 計	一 般		資料館講座			映画会		合 計	
		大人	高校生	中学生	小学生	大人	高校生	中学生	小学生		大人	小中高生	歴史講座 解説講座	資料館 主催 体験講座	学校等 体験教室	大人	小中学生		
3/4	25	347	1	9	48	47	0	0	4	456	181	0	45	0	6	45	0	277	733
5	26	355	0	3	46	35	0	11	0	450	95	13	0	51	27	28	23	237	687
6	25	488	2	1	36	77	0	19	61	684	119	0	45	24	187	59	10	444	1,128
7	27	667	12	12	111	145	0	0	75	1,022	200	0	73	166	395	640	188	1,662	2,684
8	26	912	26	24	270	56	0	7	25	1,320	187	0	0	51	433	968	359	1,998	3,318
9	25	1,679	21	23	229	0	0	0	0	1,952	144	0	0	0	0	1,679	273	2,096	4,048
10	27	1,229	20	15	114	79	0	0	197	1,654	134	0	0	66	196	1,307	151	1,854	3,508
11	24	666	1	4	67	264	0	1	2,119	3,122	148	0	48	87	2,210	838	116	3,447	6,569
12	23	564	2	3	57	119	0	5	471	1,221	125	0	41	56	640	634	83	1,579	2,800
4/1	23	306	1	4	65	8	0	0	187	571	140	0	0	0	195	305	69	709	1,280
2	24	258	0	0	52	6	0	0	46	362	112	0	0	0	52	258	52	474	0
3	27	475	9	8	54	19	0	0	49	614	130	0	15	0	0	442	61	648	0
合計	302	7,946	95	106	1,149	855	0	43	3,234	13,428	1,715	13	267	501	4,289	7,203	1,385	15,425	28,853

※団体観覧者数には、講座受講者を含み、公園利用のみの団体は含まない。

ふるさとの歴史再発見講座

「薬師如来と薬師信仰 —その変遷と造形—」

大分市文化財保護審議会委員 渡辺 文雄

豊後国分寺の本尊は薬師如来である。ここでは、先ず薬師如来とはいかなる仏なのか、その意義や姿かたちについて知ることから始め、次に我国における薬師如来の推移、とくにその濫觴期にあたる古代の社会状況のなかに盛行の契機を探る。具体的には、聖武天皇期における疫病・飢饉の瀬発から国分寺建立にいたる経緯を辿り、最後に豊後国分寺と薬師如来との関係を考える。

1. 薬師如来とは

薬師如来の名称は、その梵名であるバイシャジャグル (Bhaisajyaguru) の漢訳 (バイシャジャ=薬、グル=師) である。その意義については、東方の浄瑠璃世界の教主であって、西方浄土の阿弥陀如来が死後來世での安楽をもたらすのに対して、十二の大願をもって人々を病苦や心の不安から解放する現世利益の仏であるということである。その起源は定かではないが、インド・バラモン教のバルナ神が、多くの薬をもって人々の命を永らえる力をもつことから、これが薬師如来の原型ではないかともいわれる。

薬師如来のことを説く経典には、東晋の帛戸梨はくしり密多羅みつたら訳 (317～322年)『灌頂拔除過罪生死得度経』(略して『灌頂経』)を初見に数例が知られるが、そのうち唐の玄奘訳 (650年)『薬師瑠璃光如来本願功德経』(略して『薬師本願経』)が最も広く普及しており、我国で行われた薬師如来に対する信仰はこれによるところが大である。また同じく唐の義浄訳 (707年)『薬師瑠璃光七仏本願功德経』(略して『七仏薬師経』)は、七仏薬師の信仰を支える根拠となっている。

玄奘の『薬師本願経』は、東方仏土の浄瑠璃世界の教主である薬師瑠璃光如来がいまだ菩薩であった時に発した十二大願について先ず説いている。そのうち、第六願に「諸根具足」、第七願に「除病安

楽」を掲げ、その現世利益的側面を説いている。すなわち、「我(薬師)来世に悟りを得たらば」「生まれながらに身体に不自由のある者も、さまざまな病苦にある者も一度わが名を聞くときは、一切の苦しみはなくなり、心身安楽となり、家族・道具など皆豊かになり、最上の悟りを得ることができる」というのである。

このように、人びとの苦を除き幸福をもたらすというきわめて利益的な性格から、薬師如来に対する信仰は早くから行われたようで、上記経からは、少なくとも東晋時代の4世紀初頭頃まで遡り、初唐時代 (618～711年) に一つの高まりがあったようである。

2. 薬師如来のかたち

仏教の礼拝対象である「仏像」としての薬師如来の具体的なかたちについて、経典や儀軌に特別記すところはないが、立像であれ坐像であれ、通常は頭部に肉髻をあらわし、単衣の衲衣を着た如来形に、右手を施無畏印、左手を与願印に結び、左掌に薬壺をのせた姿(『図像抄』)にあらわされる。

ただ我国では、後掲の奈良・法隆寺金堂像や同薬師寺金堂像などのように、古代の作例にあっては薬壺を持たない像もある。それは、これら諸像が、ただ唯一「薬師如来が左手に薬壺か腕を持つ」と記す不空(705～774年)訳『薬師如来念誦儀軌』が伝わり普及する以前に作られたからであろう。



『図像抄』の薬師如来像

また薬師如来像には、単独で安置される以外に、玄奘(602～664年)訳『薬師本願経』に、薬師浄土である東方瑠璃光世界の主要菩薩と説かれる日光・月光の脇侍菩薩をともなった薬師三尊像として安置される場合があり、さらにはこれらに眷属としての十二神将像ともども安置されることも多い。ちなみに十二神将は十二薬叉大将ともいい、薬師如来の十二大願に応じて、昼夜の十二刻、十二ヶ

月、十二方角を守るとされ、我国では十二支が割り当てられた。

すなわち、宮毘羅(くびら・子)、跋折羅(ばさら・丑)、迷企羅(めきら・寅)、安底羅(あんてら・卯)、頗備羅(あにら・辰)、珊底羅(さんてら・巳)、因陀羅(いんだら・午)、波夷羅(はいら・未)、摩虎羅(まごら・申)、真達羅(しんだら・酉)、招住羅(しょうずら・戌)、毘羯羅(びがら・亥)の各大将十二軀である。

以上のほか、『薬師本願経』に、「薬師如来の功德を得て病苦から逃るるに、七日七夜心身ともに正しくし、彼の(薬師)如来の形像七軀を造り、その仏前に七七四十九の燈明をともして供養すべし」とある七軀の薬師如来について、義浄訳『七仏薬師経』に尊名が記されている。すなわち、善名称吉祥王如来、宝月智嚴光音自在王如来、金色宝光妙行成就如来、無憂最勝吉祥如来、法海雷音如来、法海勝瑟遊戯神通如来、薬師瑠璃光如来の七尊、いわゆる七仏薬師である。そのかたちについては、『阿婆縛抄』や『覚禅抄』などの図像集によれば、等身の坐像もしくは三尺の立像を基本に印相も施無畏・与願印に薬壺を持つもの、持たないものなどのバリエーションがある。また、実作例では、光背の中に七仏薬師を表す例もある。

3. 古代の薬師信仰

我が国での薬師如来に対する信仰が、仏教伝来(6世紀)以降の早い時期から盛行していたであろうことは、この期の薬師如来像の遺例が比較的多いことから窺える。これを記録上でみると、以下のような記事に代表される。

○天武9年(680)11月、天皇(天武)、皇后(持統)不予により、(その平癒を)誓願して初めて薬師寺を建立発願する。(『日本書紀』29)

○天武15年(686)5月、天皇、初めて病となり、よって川原寺で薬師経を説かしむ。この年9月、天皇崩御(同)

○養老4年(720)8月、右大臣藤原朝臣不比等病となり、(元正天皇)京内四十八寺に命じて薬師経を読ませしむ。(『続日本紀』8)

○天平16年(744)12月、(聖武天皇)天下諸国をして、薬師悔過を七日行わせしむ。(同15)

○天平17年(745)9月、天皇不予、(中略)又京畿内諸寺及名山浄処に薬師悔過の法を行わせしむ。(中略)又薬師仏像七軀高六尺三寸を造らせしむ。(同16)

○天平19年(747)3月、天皇(聖武)不予により、皇后(光明)新薬師寺を立て、七仏薬師像を造らせしむ。(『東大寺要録』1)

薬師如来に関する造寺造仏や法要の実施、薬師経の転読が、病気の平癒という現世利益を期待して行われていたことを示している。これは、薬師如来の十二大願のうち、とくに第七願「除病安楽」に依拠していることは明らかだろう。

このような薬師如来に対する信仰形態が盛行した背景には、我国古代における社会的状況としての疫病の流行があげられる。飛鳥～奈良時代の記録である『日本書紀』『続日本紀』によると、崇神天皇5年の「国内多疾疫、民有死亡者、且大半矣」を初見に奈良時代までに起きた疫病(多くは疱瘡=天然痘)の流行は、三十数回におよぶ。そのうち最も顕著なのが天平9年(737)12月の記事である。すなわち、「是年の春、疫瘡大に発る。初め筑紫より来りて、夏を経て秋に渉る。公卿以下天下の百姓、相継ぎて没死すること、勝げて計ふべからず。近き代より以来、これに有らず。」(『続日本紀』第12巻)とある。

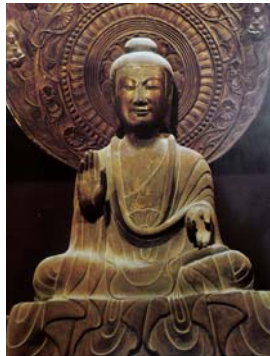
こうした疫病の大流行は、現代でもそうであるが、然したる医療技術や防疫手段をもたない古代においては、国家自体の存亡にもかかわる緊急事態であり、この現世において人びとを救済するという薬師如来に対する信仰が隆盛したのも当然であろう。

4. 飛鳥・奈良時代の薬師如来像

以上のような古代における薬師如来の現世利益的な信仰状況のなか、薬師如来の尊像もまた多く作られた。以下、それらのうち、時代を画する作例3例を取り上げ、その造像の経緯と造形的特徴をみておきたい。

(1) 法隆寺金堂薬師如来坐像(像高 63.0 cm)

法隆寺金堂の内陣壇上の本尊釈迦三尊像(推古31・623年、鞍作止利<止利仏師>作)の向かって右方に安置される。光背の裏面に陰刻銘があり、「天皇(用明)が丙午の年(586)に病気になったとき、大王天皇(のちの推古天皇)と太子(聖徳)を召して病平癒を誓願して寺と薬師像を造るように詔したが間もなく崩御されたので、推古天皇と聖徳太子が丁卯の年(607)に造り奉った」ことが知られる。この銘文については、以前からその用語・内容などに疑義が呈されており、また年代的にもこの時期に薬師信仰が行われていたのは疑わしいとされ、その像容や作ぶりの近似からは、これも釈迦三尊像からあまり下らない頃の止利派による作例で、それも我国の薬師信仰を反映した最も早い作例と考えられる。



法隆寺金堂薬師如来坐像

(2) 薬師寺金堂薬師三尊像(中尊 154.8 cm)

前述のように、天武9年(680)、病に伏した皇后(後の持統天皇)の平癒を願って、天武天皇が建立を発願したのが薬師寺である。しかし、朱鳥元年(686)天皇は寺の完成を見ることなく崩御、工事は次代持統天皇に受け継がれた。持統2年(688)、薬師寺で無遮大会が行われており、寺はこのころには大方の完成をみていたのであろう。

平城遷都にともない、薬師寺が移転したのが養老2年(718)のこととされる(『薬師寺縁起』)。現在、薬師寺の金堂安置の薬師三尊像については、これがこの移転時より以前、持統11年(697)藤原京の薬師寺で開眼供養が行われた(『日本書紀』30)ときのものなのか、あるいは移転後の新京で造立されたものなのか問題となるところである。いずれにせよ、平城京での薬師寺の創建



薬師寺金堂薬師三尊像(中尊)

と薬師三尊像の安置は、我国によくやく薬師信仰が定着したことを物語るものにほかならない。

(3) 新薬師寺金堂薬師如来像・十二神将像(中尊 186.3 cm)

『東大寺要録』(巻第一)によれば、天平19年(747)3月、仁聖(光明)皇后は、天皇(聖武)不予により(その平癒を祈って)新薬師寺を建立し、七仏薬師像を造立した。とある。ただし、この時の新薬師寺の堂舎と仏像は遺っていない。

現在の新薬師寺の五間四面の本堂は、奈良時代の建築であるが、他の堂舎からの転用とされ、中央の円形の土壇の中央に半丈六の木造薬師如来坐像を安置し、周囲を塑造の十二神将像が圍繞する。薬師像は、カヤ材による一木造(頭体一材に背面内刳、両手・膝前別材)で、光背に六仏(本体と合わせて七仏薬師)をあらわす。量感に富んだ体軀は力強く、大きく見開かれた眼は印象的で異国の風がある。切れ込みの深い衣文は、翻波文や渦文をあらわすなど変化に富み、爛熟期の盛唐様式の反映をみることができる。上記天平19年建立時の「七仏薬師像」がどのようなものであったかは不明だが、奈良朝後期の薬師信仰の実態を伝えるものとして注目される。

5. 国分寺の建立と薬師信仰

(1) 国分寺建立の詔

天平13年(741)3月、聖武天皇は国分寺建立の詔勅を下された。『続日本紀』巻14の記載のうち、注目される記述の部分の抄出すると以下のようである。

乙巳、詔して曰く、朕薄徳を以て、忝くも重任を承く。(略)頃者年穀豊かならず、疫癘頻りに至る。(略)是を以て広く創生の為に遍く景福を求む。(略)去歳普く天下をして釈迦牟尼仏尊像高一丈六尺各一舗を造り、并に大般若心経各一部を写さしむ。(略)若し国土有りて、此の経を講宣読誦、恭敬供養、流通せしむれば、(略)一切の災障皆消殄せしめ、憂愁疾疫も亦除差さしめん。(略)宜しく天下諸国をして各七重塔一区を敬造し、并に金光明最勝王経、妙法蓮華経各一部を写さしむべし。朕また別に金字

金光明最勝王經を写し、塔毎に各一部を置かしめんと擬す。(略)国司等各宜しく務め嚴飾を存し、兼ねて潔清を尽くすべし。(略) 遐邇に布告して朕が意を知らしめよ。又国毎の僧寺には封五十戸、水田十町、尼寺には水田十町を施す。僧寺には必ず廿僧有り、其の寺名を金光明四天王護国之寺と為さしめ、尼寺に一十尼あり、其の寺名を法華滅罪之寺と為さしむべし。(後略)

(2) 「詔」発出の経緯

聖武帝がこのような国分寺建立の詔を出すについては、それまでも彼の中で造営にいたる様々な機運が醸成されていたことは確かであろう。神亀5年(728)9月、第一皇子基王が僅か二歳で薨去しているが、8月、その病気の平癒を願って観音菩薩像百七十七軀を造り、経百七十七巻を書写させている。聖武の熱烈な仏教帰依はこの辺りに端緒があるものとも思われる。同年12月には、諸国六十四ヶ国に十巻ずつ計六百四十巻の金光明経を頒布し、国家の平安を誓願しているのはその現れである(『続日本紀』10)

天平9年(737)は、前述のように疫瘡(天然痘)が猖獗をきわめ、飢饉が頻発した年である。百官、百姓の貴賤を問わず多くの人々が命を落としている。3月、詔が出され、国毎に釈迦仏像一軀、脇侍菩薩二軀を造らしめ、併せて大般若経各一部を書写させている。加えて、天平12年(740)8月筑紫で勃発した大宰少貳藤原広嗣の乱は、聖武朝廷に危機的状況をもたらした。内乱は広嗣が誅殺されることによって、この年のうちに鎮圧されたが、この時期対外的には新羅との関係が険悪化してきており、朝廷はまさに内患・外寇の危機に直面していた。

こうした情勢のなか、同12年10月、ついに聖武天皇は平城を離れ、東国に点々と頓宮しながら、その年の12月、山背・恭仁京に遷都した。翌天平13年(741)3月、恭仁京において天皇は国分寺建立の詔を下されたのである。

(3) 建立の詔が目指したもの

詔勅のなかで、国分寺には「各七重塔一区」を造り、「金光明最勝王経・妙法蓮華経各一部」を安置、

またこれらとは別に「金字金光明最勝王経一部」を安置することを基本とし、寺は僧寺と尼寺に分け、僧寺はその名を「金光明四天王護国之寺」とし僧20人を、尼寺は「法華滅罪之寺」とし尼僧10人を常住させた。また、寺院経営の糧として、僧寺には封戸50戸・水田10町が、尼寺には水田10町が施入された。いわゆる「国分寺」の呼称は、天平19年(747)11月に「国分寺建立督促の詔」が下されているから、天平末年頃には定着していたのであろう。そこには、国ごとに「分け置かれた寺」という政治性の高い寺、まさに鎮護国家を祈る寺としての役割が負託されていたと思われる。

(4) 国分寺と薬師信仰

ところで、今ここで問題としたいのは、こうした詔によって建立が推進された国分寺の本尊がいかなる尊像であったかということである。直接語られてはいないが、詔の中に「去る歳、普く天下をして釈迦牟尼尊像高一丈六尺各一舗を造り、并に大般若経各一部を写さしむ」とあり、これは天平9(737)3月の詔で、「毎国令造釈迦仏像一軀、脇侍菩薩二軀、並令写大般若経各一部」とあることに該当すると思われる、釈迦如来像それも丈六像が国分寺の本尊として想定されていたことが窺える。このことは「国分寺の詔」が下される二ヶ月前、天平13年(741)正月、故太政大臣藤原朝臣家からの返上のあった食封五千戸のうち、三千戸が諸国国分寺に施入され、「丈六仏像」を造る料に充てられた、という記事が補強する。

聖武朝における薬師信仰の動向については、上記のように天平16年(744)、「天下諸国をして薬師悔過を七日行かせた」(『続日本紀』15)ののが初見であり、それは翌17年に、天皇の不予により、京畿内諸寺に薬師悔過の法を行わせ、薬師仏像七軀を造らせたことや、同19年、同じく天皇不予により、皇后が新薬筋を建て、七仏薬師像を造らせたことから知られるように、病氣平癒を祈願しての信仰が主体であったように思われる。

しかしながら、全国に現存する38ヶ所の国分寺に伝えられる本尊像をみると、本来の釈迦像はきわめて少なく、32ヶ寺の本尊は薬師如来像である。

その理由については不明瞭であるが二通りのことが考えられよう。第一は「詔」が出されて以後、建立された当初の国分寺の本尊は釈迦如来であったが、我国に薬師信仰が広がっていった段階で本尊が薬師如来に代わっていったという考え方と、第二は創建当初から多くの国分寺の本尊は薬師如来であったとする考え方である。これは、両方とも正しいといえよう。つまり、上記のように詔から3年後の天平16年、聖武天皇が天下諸国に薬師悔過七日間の勤修を命じたのは、彼にとって薬師如来が釈迦如来と同等以上に重要な尊像であったことを窺わせる。薬師悔過は薬師如来を本尊として、その仏前で罪過を懺悔して薬師経を講讃する法要であり、本来、病氣平癒という私的な祈願よりも、釈迦仏や盧舎那仏と同じように鎮護国家という、より普遍的な功德を期待するものであった。後年、南都仏教を学び国分寺で出家した学僧最澄が、山背・比叡山に草庵を結び比叡山寺（後の延暦寺）を創建、その根本中堂に自刻の薬師如来像を安置し、鎮護国家を標榜して我国天台宗の嚆矢となったことに象徴されるように、この頃の薬師信仰は、薬師如来の十二大願のうちの第五の「具戒清浄」に依拠した戒律護持の信仰へと変容していったことが考えられる。このように、現存する国分寺の本尊の多くが薬師如来であること背景には、奈良時代から平安時代にかけて、薬師信仰の内容が大きく変化していったことが関係している。

6. 国分寺本尊薬師如来像の諸相

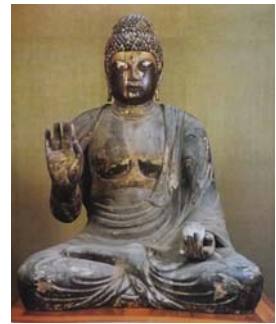
以下では、現存する国分寺38ヶ寺のうち、本尊薬師如来像を安置する寺院32ヶ寺の代表的な尊像のいくつかを紹介しておきたい。

(1) 淡路国分寺と本尊釈迦如来坐像

兵庫県南あわじ市にあり、国分寺跡に隣接して現国分寺が建つ。律宗寺院。同寺釈迦堂の本尊釈迦如来坐像は、現存国分寺としては唯一の釈迦像であり、像高294.8cmのまさに国分寺建立の詔にいう「一丈六尺釈迦像」である。体内に墨書名があり、暦応3年(1340)「仏師命円」の作と知られる。



淡路国分寺釈迦如来坐像



佐渡国分寺薬師如来坐像

(2) 佐渡国分寺と本尊薬師如来坐像

新潟県佐渡市にあり、国分寺跡の東に接する。創建は、天平宝字8年(764)に「最勝王経」「法華経」が施入されていることからこの頃の建立とされる、現在は真言宗。本尊薬師如来坐像は像高135.2cmのいわゆる半丈六像で、一木造からなる平安時代前期(9世紀)の古像である。国分寺の本尊としては、現在最古の薬師如来像である。

(3) 周防国分寺と本尊薬師如来坐像

山口県防府市にあり、現国分寺(真言宗)の建物は創建国分寺の伽藍跡とほぼ重複する。現金堂は江戸時代後期の再建であるが、本尊薬師如来坐像は応永24年(1417)焼失後、同28年再興時の本尊像である。像高195.1cm。近年の修理時に体内から旧本尊の仏手が発見された。また現本尊像の薬壺からは、元禄12年(1699)の墨書とともに、穀類や多種の生薬などの奉籠物が発見され、江戸期における国分寺および薬師如来に対する信仰の実態を伝えている。



周防国分寺薬師如来坐像

(4) 飛騨国分寺と本尊薬師如来坐像

岐阜県高山市にあり、現真言宗。旧国分寺は天平勝宝9年(757)の創建と伝え、境内に七重塔の心礎が遺る。現本堂の本尊薬師如来坐像は、像高145.9cmの平安後期の古像である。

(5) 若狭国分寺と本尊釈迦如来坐像

福井県小浜市にあり、旧国分寺跡はそのまま現

在の国分寺（曹洞宗）の境内となっている。当初の国分寺跡からは、平安初期以前の遺物が出土しないことなどから、その創建は平安時代になってからと考えられている。鎌倉中期頃の資料に国分寺のことが記されていることから、このころまでは存続したようである。現在の本堂である釈迦堂の本尊薬師如来坐像は、江戸時代の作ではあるが像高 318 cmを測る丈六像である。また、薬師堂があり、本尊釈迦如来坐像は、鎌倉盛期彫刻の優作である。像高 79.7 cm。



若狭国分寺薬師如来坐像

7. 豊後国分寺と薬師如来像

発掘調査によれば、豊後国分寺は、およそ東西 182m南北 300mの敷地のなかに、南から南門・中門・金堂・講堂・食堂が縦にならび、西に 30mほどずれて七重塔が建つ壮大な伽藍をもった寺院であったことが知られる。現在は金堂跡に薬師堂、七重塔跡に観音堂が建ち、薬師堂には国分寺の本尊である薬師如来坐像が安置されている。

寺伝等によれば、その創建は、天平 13 年(741)聖武天皇の詔勅により、石川民部某が藤原智泉とともに僧寺・尼寺を建立、のちに行基を開基としたという。しかし、実際には、天平 16 年(744)諸国に建立の督促がなされた(『続日本紀』15)ことから、他の国と同様にその完成はかなり遅れたようである。天平勝宝 8 年(756)12 月、諸国 26 ヶ国(越後を除いてすべて西国)の金光明寺つまり国分寺に灌頂幡一具ほかの下賜があった(『続日本紀』19)なかに豊後国も含まれており、少なくともこの頃までにはある程度の寺観を整えていたのであろう。この時の下賜はおそらく、「以充周忌御斎莊嚴」とあることから、この年の 5 月に崩御した聖武上皇の一周忌の法会に備えるためのものであったと思われる。

創建後の国分寺の推移は不明瞭であるが、『雉城雑誌』等によれば、鎌倉時代の仁治元年(1240)守護

大友 2 代親秀が寺堂を修復、奈良西大寺の叡尊を中興開祖とし、その弟子忍性を住持としたといい、この頃まで寺院としての命脈を保っていたものであろう。弘安 8 年(1285)の『豊後国図田帳』によると、その寺領は 10 町で、地頭は甲斐国住人市川左衛門宗清・五郎とある。その後、元弘 2 年(1332)・嘉慶 2 年(1388)に豊後一宮柞原八幡宮の祭事の役を勤めたことが記録され(『柞原八幡宮文書』)ており、この頃には、柞原宮の末寺に組み込まれていたと考えられる。江戸時代の国分寺は、豊後府内藩大給松平氏初代藩主松平忠昭の延宝 3 年(1675)、天台僧円海によって再興され天台宗となった。現在、本尊薬師如来像を安置する薬師堂(本堂)は、二代藩主松平近陳の元禄 7 年(1694)に完成している。

薬師堂の本尊薬師如来坐像は、いわゆる周丈六の巨像であり、奈良時代の創建時の本尊がどのようなものであったかは不明であるが、その規模において、間口 7 間・奥行 4 間の金堂にふさわしい法量を踏襲している。また、尊像の種類も、前述のように天平勝宝 8 年(756)を下限とする創建時期からして、当初から薬師如来像であった可能性が高いと考えられよう。現本尊像は、その作ぶりからは、元禄 7 年(1694)の本堂再興時の造立とみて大過ないように思われる。ただ、その台座蓮華座のうち複弁八葉の反花座については、きわめて古様であり、中世の形式を踏襲している可能性がある。

ところで、豊後国分寺の推移のなかで注目されるのは、鎌倉時代の仁治元年(1240)に守護大友氏を大檀那に、西大寺派律宗の祖叡尊の弟子忍性が寺堂を再興していることである。西大寺律宗と国分寺の関係については、明德 2 年(1391)の『大和西



豊後国分寺薬師如来坐像



同左側面



豊後国分寺薬師如来坐像台座(反花)

『大寺諸国末寺帳』などによれば、諸国国分寺のうち10数ヶ寺が西大寺末となっており、鎌倉後期から中世にわたって、多くの国分寺の復興に西大寺派律僧達が関わっているという事実がある。彼らは、戒律復興と庶民救済を標榜して、各地の民衆のなかに溶け込んでいった。忍性もまた、奈良に北山十八間戸を設け、鎌倉に開いた極楽寺内に療病院や施薬院を設置するなど、人びとを病苦から救済する社会事業を推進している。律僧たちが、古来薬師如来を本尊として、薬師信仰の実践の場であった国分寺と多く関わっていったのは必然の流れであった。仁治元年(1240)の大友親秀による豊後国分寺の復興に、西大寺派律僧が関わったという事実は、徳治2年(1307)同じく大友貞宗による金剛宝戒寺の復興に、やはり西大寺派律僧である幸尊が関与したことが補強する。そして、その復興に叡尊の弟子の中でも、上記鎌倉極楽寺や奈良北山十八間戸の例にみるように、ほかならぬ庶民救済の事業を身をもって実践した忍性が関わったという点は注目されてよい。

これは、憶測の域を出るものではないが、忍性復興後の中世の豊後国分寺は、本尊薬師如来の大願である「除病安楽」を標榜・実践する寺院であったのではないだろうか。

本稿は、渡辺文雄氏が令和3年12月18日(土)当館のふるさとの歴史再発見講座において「薬師如来と薬師信仰—その変遷と造形—」の表題で講演された際に作成・配布されたレジユメをもとに、講演当日にはパワーポイントを用いていた写真資料の一部を本文中に掲載して再編集したものである。

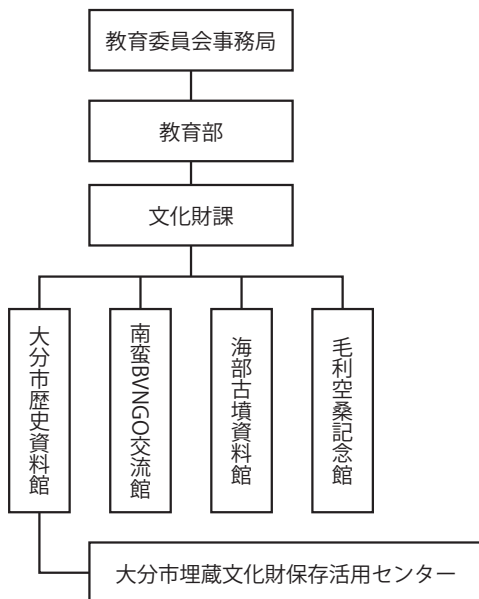
管理及び運営

1. 歴史資料館協議会

氏名	役職	備考
平井 義人(会長)	日出町歴史資料館・帆足万里記念館 館長	学識経験者
篠崎 悠美子(副会長)	別府大学文学部 教授	学識経験者
田中 裕介	別府大学文学部 教授	学識経験者
阿部 辰也	大分県立歴史博物館 館長	行政関係者
佐藤 由美子	大分市小学校長会代表	学校教育関係者
岩下 光少	大分市中学校長会代表	学校教育関係者
渡邊 恭子	大分市 PTA 連合会	社会教育関係者

2. 組織機構・分掌事務・職員・歳入歳出

(1) 組織機構



(2) 分掌事務

- ①資料館の施設及び設備の維持管理並びに使用に関すること。
- ②歴史資料、考古資料、民俗資料等(以下「歴史資料等」という。)の収集、保管及び展示に関すること。
- ③常設展示及び特別展示の企画及び実施に関すること。
- ④歴史資料等に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。
- ⑤歴史、考古、民俗等(以下「歴史等」という。)についての講演会、講習会、研究会、映写会等の開催に関すること。
- ⑥学校、図書館、公民館等の諸施設に対する歴史講座等についての協力及び活動の援助に関すること。
- ⑦歴史資料等についての案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の刊行に関すること。

管理及び運営

(3)職員

(令和3年4月1日現在)

職名	氏名	職名	氏名
参事 兼 館長	植木 和美	学芸調査担当班 参事	塩地 潤一
管理普及担当班 参事補	志賀 良史	主 査	松浦 憲治
主 査	渡辺 政雄	事務員	増永 祥大
主 査	大野 三雄	専門員(再)	塔鼻 光司
主 査	永松 正大	会計年度任用職員	甲斐 猛
主 査	幸 倫子	会計年度任用職員	柳原 淳
会計年度任用職員	久多羅岐 明	会計年度任用職員	神田 太一
会計年度任用職員	手嶋 俊豪	会計年度任用職員	右田 芳明
会計年度任用職員	馬場 宏之	会計年度任用職員	荒木 伴世
会計年度任用職員	生野 信治	会計年度任用職員	米倉 加奈絵
会計年度任用職員	和泉 ゆかり	会計年度任用職員	長畑 次弘

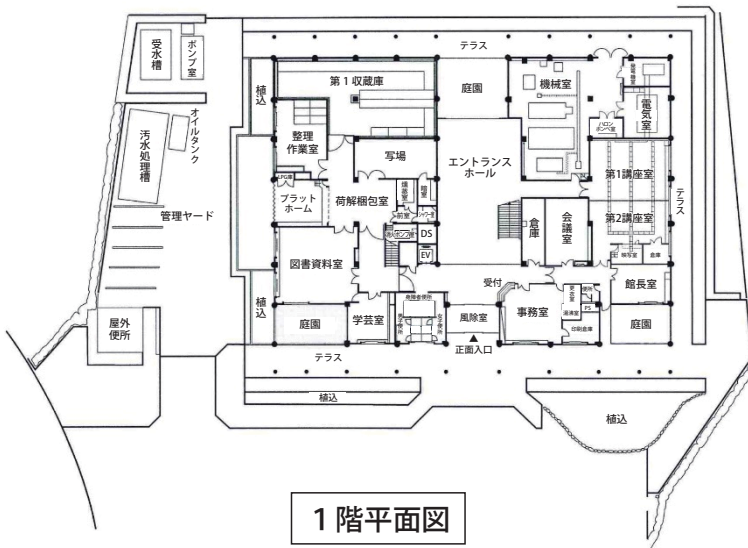
(4)歳入歳出

(令和3年実績)単位：千円

歳 入		歳 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
観覧料・講座室利用料	957	管理運営費	49,331
歴史講座受講料	288	企画展費	6,623
図録売払代金	249	資料購入費	19,092
雑収入	1		
計	1,495	計	75,046

施設の概要

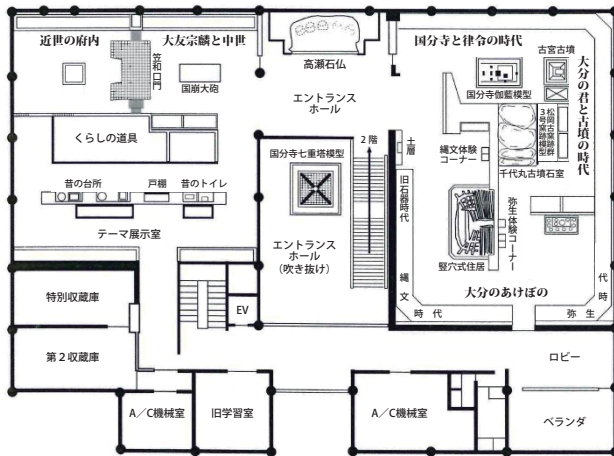
〈階別室別床面積〉 1階平面図



1階平面図

階別	部門	室名	面積(m ²)
1階	教育普及	第1講座室	63.72
		第2講座室	47.83
		映写室	8.23
		小計	119.78
	サービス	エントランスホール	215.05
		その他	131.25
	小計	346.30	
	事務管理	館長室	30.37
		事務室	46.54
		会議室	38.20
		倉庫	33.69
		更衣室	3.72
		その他	14.73
		小計	167.25
	学芸調査	図書資料室	80.93
		学芸室	25.22
		写場	48.37
	小計	154.52	
	収蔵	燻蒸室	6.75
		整理作業室	49.00
		プラットフォーム	31.50
荷解梱包室		52.02	
第1収蔵庫		135.67	
小計	274.94		
管理	機械室	197.54	
	EV他	10.06	
小計	207.60		
1階計			1270.39

2階平面図



2階平面図

階別	部門	室名	面積(m ²)
2階	展示	第1展示室	362.25
		第2展示室	243.00
		テーマ展示室	85.50
		小計	690.75
	収蔵	第2収蔵庫	41.62
		特別収蔵庫	41.62
	小計	83.24	
	サービス	旧学習室	33.63
		エントランスホール	87.51
		ロビー他	260.30
	小計	381.44	
	管理	A/C機械室	59.61
		小計	59.61
2階計			1215.04
塔屋	管理	排煙機械室	9.33
		ポンプ室	24.75
		階段その他	8.61
塔屋計	42.69		
屋外	管理	屋外便所	24.30
		ポンプ室	12.50
屋外計			36.80
総計			2564.92

利用案内

開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日：毎週月曜日（祝日の場合は開館）

ただし、毎月第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館（祝日は開館）

祝日の翌日（土・日曜日の場合は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）

観覧料：大人：210円（団体150円）

高校生：100円（団体50円）

中学生以下は無料

*団体は20名以上

*特別展開催中は、
別料金となる場合があります。

交通機関：JR久大本線

◎豊後国分駅下車：徒歩2分

大分自動車道

◎大分I.C・光吉I.C.よりともに約15分



令和3年度総合案内チラシ(オモテ)



令和3年度総合案内チラシ(ウラ)

大分市歴史資料館年報 2022

発行日：令和8年3月31日

編集・発行：大分市歴史資料館

〒870-0864 大分市大字国分960番地の1
TEL:(097)549-0880 FAX:(097)549-5766
